



お盆休みも明けた八月のある日、千葉県出身の自治医大生と卒業生医師が多古町に集まりました。毎年恒例の夏期地域医療研修(夏期研修)が行われるからです。一年生から五年生までの十人が、千葉県内で地域医療に従事する卒業生の下で二泊三日の夏期研修に参加します。この研修は一九八四年から実施され、自治医大千葉県人会の伝統の一つになっています。

親子に生活指導

研修のテーマは「小児生活習慣病の健康学習会を行うこと。医大生の役割は、小学四年生と中学一年生に生活習慣病について分かりやすく話すこと、レクリエーションで一緒に体を動

医大生と学ぶ地域医療

かし、運動の楽しさを理解してもらうことです。私たち卒業生で実施された健診結果を説明し、時間をかけて個別に具体的な生活指導をします。

さいとう 斉藤 14期生、1991年卒
 ただし 匡



自治医大生が参加して行われた夏期地域医療研修

千葉県国保多古中央病院小児科

【私の勤務地】多古町は千葉県東部に位置する人口約1万6000人の町。農業が盛んで、中でも町内で収穫される米は多古米と呼ばれ、そのおいしさから江戸時代には献上米として奉納されていた。また成田空港へ車で20分ほどの距離のため、空港に勤務する人も多い。

私は九一年に自治医大を卒業後、九三年に多古中央病院に小児科医として赴任しました。最初は診療で精いっぱいでしたが、最近は少し余裕が出てきたので先輩の教育係をするようになりまし。夏期研修で医大生と触れ合うことは新鮮で勉強になりますし、地元の人と協力して保健活動ができる絶好の機会でもあります。

相手の理解得る

健康学習会は準備が非常に大変です。特に今回は小中学生に理解してもらえよう一年間、試行錯誤を繰り返して、発表前、夜もほぼ徹夜で図や表を手直したほどでした。それほど大変ですが、相手に理解してもらおうためには、自分がまずきちんと理解していなければなりません。相手の理解度に合わせることも大切です。これらは医師に

最も必要とされる資質で、私たちが夏期研修で健康学習会を実施する最大の目的でもあります。

当日は町や学校関係者の協力です。親子二十組の参加がありまして、医大生たちが慣れない手つきで血圧測定などを行った後、健康学習会が始まりました。話し手は一年生の二人です。最初はきこなかったものの、次第に力が抜けアドリブを利かせる余裕もみられました。レクリエーションのころには子供たちと打ち解け、十分成功したように思いました。卒業生医師による個別の生活指導も保護者に大好評をいただきました。

研修最後の夜は町や学校関係者も交え、大いに盛り上がったのは言うまでもありません。この夏期研修を通して、「患者さんやその家族、地域の人々とのコミュニケーションを図る能力」を向上させることはもちろん、一人でも多くの自治医大生が「地域医療のリーダー」に育ってほしいと願っています。

(次回予定は茨城県)